

# SSKO

ハイランドレポート  
(高原通信)

## Highland report!?

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター  
ニュースレター 第16(2004.7.5)

### タイ研修レポート 4

NACC 栗坪千明

シリーズでお送りしてきましたレポートも今回が最終回です。  
今回、紹介するのはタムクラボーク寺院です。タイのなかでも有数の仏教原理主義寺院である。広大な敷地を持ち、寺院内のことは全て寺院の僧侶が行なう。食物はもちろん、仏像や建物の建設、道路の整備なども僧侶が設計から施工まで行なっているという徹底振りである。乗り物に乗ることを自ら禁止しており、必ず徒歩で出かける。妻帯はせず、食事も一日一食である。僧侶も様々な人種がいる。日本人は居ないということだったが、寺院に薬物の治療に来て、そのまま帰依するケースも少なくない。われわれを案内してくれた方も元は薬物依存者であったという。全身刺青の入っている方も居た。モン族の受け入れもしている。モン族とはタイ北部のラオス、ミャンマーとの国境で先祖代々ケシの栽培をしていた部族で、タイ政府の政策の麻薬撲滅運動の一環として、その場所に住めなくなった少数民族である。少数民族と言ってもタムクラボーク寺院では3万人を受け入れており、寺院の敷地内の一角にひとつの集落を作って生活している。つい最近アメリカが受け入れを決定し、アメリカ国籍の用意をしているが、モン族自身の感情の問題からか、遅々として進んでいない様子。実際我々が行った時も、たくさんの人たちが暮らしていた。話がそれだが、それだけ国に対して数々の薬物対策には貢献している寺院である。

薬物の治療はまず解毒から始まる。この解毒が一風変わっており、ハーブのジュースと水をたくさん飲み、吐くことを入所して朝晩2回を5日間行なう。そのこととともにハーブの蒸し風呂に入る。夜は広い解毒室に寝るが、不安になったり、不眠になったりすると僧侶と一緒に寝付くまで付

き合ってくれる。5日間を経過すると、院内作業や僧侶の講義を聞いたりするようになる。解毒といってもメンタル的な意味合いが強いように思われる。この吐くという作業が摂食障害につながるということはないのかと考えたが、今までに起こったことはないということだった。もともとタイでは摂食障害という病気はほとんどないとも言っている。

僧侶の講義とはあくまで仏教に根ざしたものであり、薬物依存とはカルマ（人間の犯した業）によってという考え方である。カルマとは魂や精神みたいなもので、日本で言うところの因果応報である。まずは、誓いを立てること（その行為をラップサッチャという）から始まるが、サッチャとは我々の言うハイヤーパワーへの通信手段のようなものである。誓いの内容は、ただ単に薬をやめたいとかいうことではなく、その要因となる人間関係についてやストレスの要因になるような事柄で、少し掘り下げて考えて決める。そのことを一日の間で苦しまず悩まず、誓いを守り、神聖な時間を決めて過ごすことを続け、慣れてきたら時間を増やしていく。誓いを守れるよう僧侶に向かって宣言しサッチャに取次ぎをしてもらうという構図になっている。この理論で言うとハイヤーパワーはブッダに当たる。

全体的には我々のプログラムに言葉は違うが酷似している。以前我々の仲間が12ステップを見せて感想を聞いたところ、少し厳しすぎるのではないかとっていたそうだ。

家族に対しても助言をしてくれる。これも言い方や言葉は違っているが、日本で言うところの共依存という考え方と酷似しており、そこからの解放についてのアドバイスもよく似ている。例えば「過剰な愛情は与えるほうも、受け取るほうも、どちらも苦しむ。」や「祖先からの罪が後になって現れる。」などは共依存と世代連鎖によく似たことではないだろうか、と感じた。

依存者が他の依存者の回復の手助けをするという概念に基づいており、僧侶はそのまた手助けをするだけに過ぎないという、このことはNAでいうところのフェロウシップに当るのでないかと思われる。



吐くところ



ハーブの蒸し風呂

## マイストーリー

### エンマ

はじめまして、薬物依存症のエンマです。まず始めになんで薬を使ったのかというと僕が初めて使ったのはシンナーでした。16歳のとき中学時代の先輩がシンナーを使って気持ちよさそうに吸っているのを見て僕も使いたいと思い先輩にシンナーを分けてもらい使いました。とても気持ちよかったのを覚えています。しばらくすると自分でシンナーを盗んできて同級生の友達と使うようになりました。それから毎日シンナーを吸うようになりご飯も食べずに吸っていました。もちろん仕事などは続かずシンナーを使っていました。そんな生活を続けているうちに人間関係もうまく行かづ一人で使うようになり、仕事にも行ったり行かなかったりしながら3年間シンナーを吸い続ける毎日でした。

19歳になり今度は覚せい剤を覚えましたシンナーの時と同じ様に先輩に教わることになりました。先輩にクラブに連れってもらい、その先輩がDJをやっている時に覚せい剤を使いながらDJをやっている姿を見てかっこいいなと思い僕も覚せい剤を使いながらDJをやりました。最初のうちはDJを本気でやろうと思っていましたが、だんだん覚せい剤に溺れてしまい。その時に乗っていた車を売るはめになって、その頃から覚せい剤を使うと被害妄想がでてきて部屋にこもるようになり、それが何日か続くようになり苦しんでいると突然自殺したくなり首吊り自殺をしているところを親父に助けられて命は助かったんですが精神病院に入ることになりました。それから何度か精神病院に入院することになるんですが退院するたびに薬を使い苦しみました。その頃は薬を使っても全然気持ちよくなるはず、それでも薬はとまりませんでした。それを何度か繰り返しているうちに病院からダルクを紹介され福岡にあるダルクを尋ねました。そしたら沖縄ダルクに行けと言われて沖縄ダルク行きました。その時はすごくいきたくなかったんですが母親に説得され、いやいや行くことにしました。沖縄でプログラムをやっていくうちに本気で薬をやめてみようと思うようになり真剣にプログラムをやっていたのですが10ヶ月ぐらい過ぎたころ沖縄ダルクでの生活がいやになり飛び出しました。そして沖縄でアパートを借り仕事をしていたんですが、酒を飲み



フラッシュバックを起こし、どうしようもなくなり沖縄ダルクに相談に行き、今度は高知のダルクを紹介されて行きました。高知ダルクでは順調にプログラムを受けて仕事もやり始めました。けどまたフラッシュバックを起こし仕事を辞め病院に入院してしまいました。退院し体と精神も良くなりプログラムをやり直すため東京ダルクに行くようになり東京でもフラッシュバックを何度か繰り返しながらも仕事プログラムをやり、一人暮らしを出来るようになりました。しばらくそんな生活を続けて



いましたが、ある日仕事をクビになり生活保護を受けながら東京ダルクに通所してプログラムを続けていました。ある晩に眠れないと言う理由付けからお酒を飲み、そのことがきっかけで覚せい剤を使いたくなり結局は覚せい剤を使い始めてしまいました。それからはお決まりのパターンで警察に逮捕されてしまい、今度こそはという気持ちで那須でのプログラムをやっています。まだまだ自分では回復していなと思います。またクリーンを続けて薬を使わない生活続けて生きたいと思います。

### 支援会員募集のお知らせ

昨今、社会問題の一つとして若年層者の薬物使用の増加が叫ばれています。薬を止められなくなってしまった人達の回復の場として、那須ケアセンターは薬物乱用防止の一役割を担っていると自負しております。

しかし、いまだ補助制度の利用が出来ない状態なので、皆様のご協力が必要です。ぜひ支援会員となって薬物依存者の回復にご協力下さい。

年会費一口五千元より ※別紙払込表でお申し込みお願いします。また、現在施設維持費及び整備費が不足しており運営が軌道に乗るまでの間皆様の末永い支援をお願いいたします。

週間プログラム

日	土	金	木	水	火	月	曜日/時間
起床 7:20 ・ 朝食 7:30							
● セルフケア	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ● ミーティング スタッフ ミーティング	午前(九時～十時半)
	作業班・調理班の仕事・昼食 等						
	● セルフケア	● オキニベイシヨナル プログラム (山林作業・パソコン)	● ● ステップミーティング コン・ゲーム	● スポーツプログラム (那須S.O.スキー・スノーボ)	● ● ハウス ミーティング 洗車		午後(一時半～三時)
夕 食							
● 須賀川カトリック教会 (第一日曜日)	● センター	● 大田原カトリック教会	● センター	● 那須カトリック教会	● カトリック白河教会	● ● 松が峰カトリック教会 (宇都宮) 郡山細沼教会	NAミーティング
就 寝 23:30							



ヤククン2年のパースデイ

献金、検品を下さった方々

福田澄夫様、渡辺伸一様、鈴木鈴代様、水井清次様、福田コト様、  
中村八郎様、長田康司様、真野高弘様、伊川武志様、昭和大学様、  
チェチェカンパニー様、那須ケアセンターを支援する会様、  
ダックスとちぎ様、那須保護区保護士会様、飯島博様、  
他匿名3名様



発行所  
郵便番号一五七〇〇七三  
東京都世田谷区砧六一二六一二一  
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会  
定価100円

盛夏の候、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じ上げます。  
いつも献金検品などをいただきありがとうございます。

今後とも宜しく願いいたします

追伸 ご家庭で使わない掃除機などがありましたら戴きたいと思ひます。

編集

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター  
〒329-3225 栃木県那須郡那須町豊原丙 3227 番地 2

TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

Eメール n-cc@mte.biglobe.ne.jp

ホームページアドレス <http://www5f.biglobe.ne.jp/~NACC/>